

高齢者世帯における生活構造変化について

——「高齢者生活総合調査」結果の概況——

宇野正道

I 本調査の概要

家族周期の観点から、戦後における生活構造の変化をとらえようとする調査研究としては、社会保障研究所を拠点に中鉢正美氏を中心とするグループにより、昭和40年・41年・43年に実施された一連の「児童養育費調査」、ならびに昭和45年「高齢者世帯生活調査」および昭和48年「中高年者生活総合調査」があげられる。これらの調査研究は、戦後の経済成長に伴って、生涯にわたるライフ・サイクルを核家族として送らねばならない世帯が大量に出現してくるという認識にたって、そうした世帯内における児童ならびに高齢者への世代間扶養の問題を、その時期における社会保障制度の整備状況との関連の下で、家族周期の視点から解明しようとするものであった。とりわけ「中高年者生活総合調査」においては、中高年層の各世代が固有な家族周期の型を維持しながらも、次第にその周期段階を上昇してゆくなかで、老人扶養の必要性がいかなる多様性をもって登場してくるのかを、中高年世帯を重層的に構成する各世代間の扶養関係に着目し、世帯調査・家計調査・栄養調査・健康調査を通じて、様々な角度から世帯内の世代間における扶養関係の解明にせまるものであった。

社会保障研究所は昭和59年4月から2ヵ年間の研究プロジェクトとして、「高齢者世帯の生活構造の変化と社会保障」をテーマに森岡清美氏を主査とする研究会を設けた。そこでは、高齢化社会の進展と経済の安定成長の下での高齢者生活の多

様な展開を、高齢者世帯における生活構造変化という視点から把握し、年金等の社会保障が、そうした変化に対してどのような意味をもつのかを探るとともに、いかなる役割を果たしているのかを明らかにすることを研究目的としている。そして具体的方法としては、先の「中高年者生活総合調査」のパネル調査として今回「高齢者生活総合調査」を実施し、両調査の比較分析による実証研究を試みることにした。「中高年者生活総合調査」は静岡県掛川市の旧掛川町域在住の世帯を調査対象として実施され、そのうち世帯調査は昭和48年7月に行われ775世帯の面接調査を完了した。この世帯調査（以下「48年調査」と呼ぶ）では、対象世帯の家族形態（タイプ）をN（夫婦と無配偶子）、C（夫婦のみ）、C-N（夫婦と子夫婦および孫）、M-N（女子と子夫婦、孫）の四つに限定し、世帯の最高世代の年齢を45歳から74歳までとした（表1）。今回の「高齢者生活総合調査」では、世帯調査ならびに家計調査を行うことにしたが、財源等の理由からとりあえず世帯調査を先行させた。

表1 昭和48年「中高年者生活総合調査」の調査完了世帯数

年齢 タイプ	45歳 ～49	50歳 ～54	55歳 ～59	60歳 ～64	65歳 ～69	70歳 ～74	計
N	56	44	58	37	35	16	246
C	17	26	35	41	33	24	176
C-N	—	—	17	42	59	45	163
M-N	—	—	24	45	64	57	190
計	73	70	134	165	191	142	775

（注）太線で囲んだ部分は昭和59年調査の対象世帯を抽出するための母集団を示す。

表2 昭和59年「高齢者生活総合調査」の調査対象世帯数

昭和59年 昭和48年 タイプ	56歳 ～60	61歳 ～65	66歳 ～70	71歳 ～75	76歳 ～80	81歳 ～85	計
N	52	38	54	33	31	10	218
C	15	24	33	36	27	15	150
C-N	—	—	15	35	54	34	138
計	67	62	102	104	112	59	506

そして「48年調査」の対象世帯 775 ケースのうちから家族類型 N, C, C-N の 3 タイプ (合計 585 ケース) をとり出し、そのうち「48年調査」から 11 年を経過した昭和 59 年 7 月現在、掛川市内に居住し、しかも「48年調査」の調査対象者であった各世帯の最高世代の夫婦がともに健在か、あるいは夫婦のどちらか一方が健在であるケースに対して、再び戸別面接による世帯調査を実施した。11 年前に行った調査の対象者について、再び反復調査を行うことになるため、その間に対象者が死亡したり転出しているケースは、対象から除く必要が出てくる。すなわち 585 ケースのうち、対象世代の夫婦がともに死亡している場合とか、世帯全員が掛川市外へ転居しているなどの理由による非該当世帯が 79 ケースあり、その結果 506 ケースが「59年調査」の対象世帯となった (表 2)。

506 ケースを対象とする「高齢者生活総合調査」の世帯調査 (以下「59年調査」と呼ぶ) は、昭和 59 年 7 月に掛川市において実施され、戸別面接調査の結果、479 ケースについて調査結果を得た (表 3)。なお対象世代の夫年齢でみると、「48年調査」が 45 歳から 74 歳までを対象としていたの、11 年後の「59年調査」では夫年齢で 56 歳から 85 歳までが対象となっている。「59年調査」の調査票は、「48年調査」のパネル調査として企画された性格上、48 年・59 年両調査結果の比較検討を考慮し、かつその間の変化についても把握できるように項目を加えて作成された。その構成内容は「48年調査」にならって、Ⅰ. 住宅状況、Ⅱ. 世帯構成および就業状況、Ⅲ. 家計状況、Ⅳ. 対象世代の家族歴・住居歴など、Ⅴ. 対象世代の職歴、Ⅵ. つきあい、Ⅶ. 対象世代の老後生活の展望、となっている。新しい項目としては、年金等の受給に

表3 昭和59年「高齢者生活総合調査」の調査完了世帯数

昭和59年 昭和48年 タイプ	56歳 ～60	61歳 ～65	66歳 ～70	71歳 ～75	76歳 ～80	81歳 ～85	計
N	49	37	53	31	28	8	206
C	14	24	32	36	24	13	143
C-N	—	—	15	34	49	32	130
計	63	61	100	101	101	53	479

関するものとか、介護を必要とする世帯員についての状況、あるいは同居世帯における家計や食事の共同関係についての質問などが加えられている。また、この 11 年間ににおける家族歴・住居歴・職歴などに関して、フォロー・アップが可能となるように工夫がなされている。

本研究プロジェクトにおける、昭和 59 年「高齢者生活総合調査」の世帯調査に関しては、(財)年金制度研究開発基金より 2 年度にわたって研究開発助成金による援助をいただいたことを記しておく。

Ⅱ 分析の視点

「48年調査」では、家族形態 (N, C, C-N, M-N の 4 タイプ) と対象世代・夫の年齢階層 (45～49 歳, 50～54 歳, 55～59 歳, 60～64 歳, 65～69 歳, 70～74 歳の 5 歳刻み 6 区分) を組み合わせた集団をグループと名づけ、分析単位として用いている。そして「59年調査」の分析にあたっても、「48年調査」との比較検討を念頭に置くと、同じくグループを分析の基本単位とすることが有効と考えられる。

しかし、対象世代・夫の年齢階層の刻み方に関しては、「48年調査」における 5 歳刻みを 10 歳刻みに改め、45～54 歳, 55～64 歳, 65～74 歳の 3 区分とする。「59年調査」をこれに対応させると、それぞれ、56～65 歳, 66～75 歳, 76～85 歳の 3 区分となる。その結果、「48年調査」時の 55～64 歳層と「59年調査」時の 56～65 歳層との比較、同様に、「48年調査」時 65～74 歳層と「59年調査」時 66～75 歳層の比較という形で、2 時点間のほぼ同じ年齢階層どうし対比を行うことが可能となる。

表 4 家 族 形 態

昭和59 昭和48		総 数	f	m	C	N	F	M	C-C	C-N	C-M	C-S	N-C	N-N	F-C	F-N	M-C
45～49歳	総数	63		1	18	32		1	1	5	1						1
	N	49			11	31		1	1	3	1						1
	C	14		1	7	1				2							
50～54歳	総数	61		3	21	16	1	1	2	11				3	1		
	N	37		1	5	15	1	1	1	7				3	1		
	C	24		2	16	1			1	4							
55～59歳	総数	100		5	37	13	1	5	2	24			1	2	1	5	1
	N	53		2	16	10		5	2	11			1	2		3	1
	C	32		3	20	3				5					1		
	C-N	15			1		1			7						2	
60～64歳	総数	101	1	3	37	5		5	3	21	4	1				5	1
	N	31		1	11	4		4	2	4	1					1	1
	C	36	1	2	24	1				2	3	1				1	
	C-N	34			2			1	1	16						3	
65～69歳	総数	101		13	12	4	1	6	3	28						5	3
	N	28		4	3	3	1	6	1	4							1
	C	24		8	9	1				5							
	C-N	49		1					2	19						5	2
70～74歳	総数	53		4	6	1		4		8	1				1		6
	N	8			2	1		2		1							
	C	13		3	3										1		1
	C-N	32		1	1			2		7	1						5
合 計		479	1	29	131	71	3	22	11	97	6	1	1	5	3	15	12

すなわち、両調査における60歳前後層、70歳前後層それぞれのライフ・サイクル・ステージ固有の特徴を明らかにすることができよう。

もとより、グループを分析単位とすることにより、たとえば「48年調査」時の家族形態Nタイプで年齢階層45～54歳のグループを45Nと表示するとき、「59年調査」時にタイプ変化がなければ、Nタイプ・56～65歳層すなわち56Nのグループとして把握され、両者の比較を通じて、「48年調査」時に45Nであったグループが11年を経過することによって、どのような生活構造の変化をとげたかが、「59年調査」の56Nにおいて明らかにされる（以下、同様のグループ表示を用いる）。

ところで、「48年調査」における家族類型のうちN、C、C-Nの3タイプについて、「59年調査」時にはどのようにタイプ変化しているかをみると、3タイプのいずれにおいてもタイプ変化なしの占める割合が最も大きいことが判明する（表4）。す

なわち「48年調査」と「59年調査」の2時点における家族形態に変化がみられないケースの占める割合は、Nタイプ31.1%、Cタイプ55.2%、C-Nタイプ37.7%であった。そこで「59年調査」の結果を分析するにあたって、「48年調査」時のグループ別に、「59年調査」時のタイプ変化の有無を分析の軸に据えて、両調査結果の比較検討を行うことが意味をもつものと想定される。そして〈タイプ変化なし〉に対して、〈タイプ変化あり〉については、タイプ変化の結果、対象世代のメンバーのみになったケース（すなわちC（夫婦のみ）、f（夫のみ）、m（妻のみ）の3タイプ）と、対象世代のメンバー以外の者が同居しているケースの二つに分けて考察することにする（表5）。なお、「48年調査」時Cタイプのうち、「59年調査」時〈タイプ変化あり〉で対象世代のみとなっているのは、fおよびmの2タイプであることはいうまでもないが、その20ケース中19ケースはm

の 変 化

M-N	M-M	S-C	C-C-N	C-N-C	C-M-N	F-C-N	F-N-N	M-C-N	M-N-N	M-N-M	M-M-C	S-M-N	C×S
		1										1	1
		1										1	1
2													
2													
4													
4													
12			1								1		
2													
1			1								1		
9													
19	1		3				1	2					
5													
1													
13	1		3				1	2					
12	3		1	1	1	1		1	1	1			
1	1												
2	1			1						1			
9	1		1		1	1		1	1				
49	4	1	5	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1

表 5 タイプ変化の有無 (実数)

昭和59 タイプ 昭和48 グループ	タイプ 変化なし	タイプ変化あり		計
		対象世代のみ (C・f・m)	対象世代+その他	
45N	46	17	23	86
55N	14	30	40	84
65N	4	9	23	36
45C	23	3	12	38
55C	44	6	18	68
65C	12	11	14	37
55C-N	23	3	23	49
65C-N	26	3	52	81
計	192	82	205	479

であり、ほとんどがこの11年間に夫に先立たれた妻の1人暮らし世帯である点に留意する必要がある。

以下においては、「59年調査」時に〈タイプ変化なし〉をⅠ，〈タイプ変化あり〉のうち対象世代のみのケースをⅡ，対象世代ならびにその他のメ

ンバーが同居しているケースをⅢとする。そして、たとえば「48年調査」時に45Nのグループが、「59年調査」時にⅠであるならば45N→56N，Ⅱならば45N→56C・f・m，Ⅲならば45N→56他というようにして、タイプ変化の有無を表示することにした（表6以下の各表の表側を参照のこと）。

Ⅲ 世帯調査の結果表

世帯調査の集計は、東大大型計算機センターで主として行われた。結果表は単純集計，クロス集計のいずれも出ているが，ここでは，前記の分析視点から必要と思われる集計結果について，その一部を掲載することにした。

対象世代（夫・妻）の存否 (表6)

対象世代（夫・妻）の年齢 (表7)

周期段階（昭48） (表8)

周期段階（昭59） (表9)

世帯員数, 稼得人数 (昭48, 昭59)	(表10)	対象世代 (夫) の健康状態	
死亡者数, 転出者数, 転入者数	(表11)	(昭48, 昭59)	(表25)
出生数, 現存子数, 別居子数	(")	対象世代 (妻) の健康状態	
創設世帯・相続世帯 (昭48)	(表12)	(昭48, 昭59)	(表26)
親との同居経験 (昭48)	(")	以上の世帯調査の結果表により若干の検討を加えておく。最初に, 対象世代における夫妻の存否 (表6) ならびに平均年齢 (表7) をみてる。対象世代の夫妻がともに健在なのは332ケースで, 夫のみ健在は25ケース, 妻のみ健在は122ケースとなっている。ここで特徴的なことは, 妻に先立たれた夫の場合は, ほとんどが子世帯等と同居する形をとるのに対して, 夫に先立たれた妻の場合, それまで夫婦のみ世帯であったケースでは大半がm (妻のみ) という単独世帯になる点である。また平均年齢においても, 単独世帯を形成する妻は他のグループと比べて比較的若く, 他方, 平均月収 (表22) では他よりもかなり高い数字となっ	
室数, 畳数 (昭48, 昭59)	(表13)		
期間内, 住宅の新築・購入・増改築	(表14)		
住居の所有形態 (昭48, 昭59)	(表15)		
住宅資金の負担者	(表16)		
住宅資金の借入れ	(表17)		
生活上の悩み (昭48)	(表18)		
生活上の悩み (昭59)	(表19)		
現住地の定住意志 (昭48, 昭59)	(表20)		
生活満足度 (昭48, 昭59)	(表21)		
対象世代 (夫・妻) の月収	(表22)		
対象世代の収入源 (昭48)	(表23)		
対象世代の収入源 (昭59)	(表24)		

表6 対象世代 (夫・妻) の存否

S. 48 グループ → S. 59 グループ (世帯数)			実 数			構 成 比 (%)		
			夫 現	妻 存	夫のみ	妻のみ	夫 現	妻 存
I タイプ 変化なし	45N→56N (46)		46				100.0	
	55N→66N (14)		14				100.0	
	65N→76N (4)		4				100.0	
	45C→56C (23)		23				100.0	
	55C→66C (44)		44				100.0	
	65C→76C (12)		12				100.0	
	55C-N→66C-N (23)		23				100.0	
	65C-N→76C-N (26)		26				100.0	
II タイプ 変化あり (対象世代のみ)	45N→56C・f・m (17)		16		1		94.1	5.9
	55N→66C・f・m (30)		27		3		90.0	10.0
	65N→76C・f・m (9)		5		4		55.6	44.4
	45C→56f・m (3)				3			100.0
	55C→66f・m (6)			1	5	16.7		83.3
	65C→76f・m (11)				11			100.0
	55C-N→66C・f・m (3)		3				100.0	
	65C-N→76C・f・m (3)		1		2		33.3	66.7
III タイプ 変化あり (対象世代+その他)	45N→56他 (23)		16		2	5	69.6	21.7
	55N→66他 (40)		23		4	13	57.5	32.5
	65N→76他 (23)		6		1	16	26.1	69.6
	45C→56他 (12)		11		1		91.7	8.3
	55C→66他 (18)		15		2	1	83.3	11.1
	65C→76他 (14)		7		1	6	50.0	7.1
	55C-N→66他 (23)		2		6	15	8.7	26.1
	65C-N→76他 (52)		8		7	37	15.4	13.5
計 (479)			332		25	122	69.3	5.2
								25.5

表 7 対象世代 (夫・妻) の年齢

	S. 48 グループ	S. 59 グループ (世帯数)	対象世代 夫年齢 (歳)	対象世代 妻年齢 (歳)
I タイプ 変化なし	45N→56N	(46)	59.70(46)	55.87(46)
	55N→66N	(14)	69.93(14)	64.00(14)
	65N→76N	(4)	79.00(4)	73.00(4)
	45C→56C	(23)	61.70(23)	58.57(23)
	55C→66C	(44)	70.98(44)	65.84(44)
	65C→76C	(12)	78.83(12)	72.83(12)
	55C-N→66C-N	(23)	71.61(23)	67.26(23)
	65C-N→76C-N	(26)	78.65(26)	74.08(26)
II タイプ 変化あり (対象世代のみ)	45N→56C・f・m	(17)	59.94(16)	56.06(17)
	55N→66C・f・m	(30)	69.96(27)	64.00(30)
	65N→76C・f・m	(9)	79.00(5)	69.78(9)
	45C→56f・m	(3)	—(0)	56.00(3)
	55C→66f・m	(6)	73.00(1)	63.60(5)
	65C→76f・m	(11)	—(0)	71.45(11)
	55C-N→66C・f・m	(3)	71.67(3)	64.67(3)
	65C-N→76C・f・m	(3)	84.00(1)	76.00(3)
III タイプ 変化あり (対象世代+その他)	45N→56他	(23)	61.67(18)	57.48(21)
	55N→66他	(40)	69.19(27)	64.61(36)
	65N→76他	(23)	78.00(7)	70.91(22)
	45C→56他	(12)	61.25(12)	57.18(11)
	55C→66他	(18)	70.41(17)	64.19(16)
	65C→76他	(14)	79.75(8)	74.46(13)
	55C-N→66他	(23)	71.75(8)	67.41(17)
	65C-N→76他	(52)	79.60(15)	75.47(45)
計		(479)	(357)	(454)

ており、自活してゆく条件を備えているものと想定される。

次に周期段階について2時点の比較をしてみると(表8, 表9), 「59年調査」時もNで〈タイプ変化なし〉のケースにおいて, 「末子20歳をこえて未婚子あり」が高率を占めており, 子の結婚が遅れている状況が見出される。この点を裏付けるのは, 「48年調査」時には45N→56Nの周期段階2~4(依存子のいる段階)が合計34.8%, 45N→56C・f・mの周期段階3~4(依存子のいる段階)が合計41.2%で, 45N→56Nの方が周期段階の進み方が早い状況にあったといえるにもかかわらず, 「59年調査」時には, 前者の周期段階3~6(未婚子ありの段階)の合計97.8%, 後者の周期段階5~6(未婚子ありの段階)の合計58.8%で, 両者の進み方が逆転してしまっていることから明白である。周期段階の比較から明らかになった

N→Nの子の結婚の遅れの原因については, 「48年調査」時の世帯員数(表10)をみると, Nの〈タイプ変化あり〉が3人台であるのに対して, 4人台と多く, 同居子の多さが影響している。

11年間における転出・転入については(表11), 〈タイプ変化なし〉における転出とは子の進学・就職・結婚等によるものであり, 転入は子および孫の卒業, Uターン等による。また〈タイプ変化あり〉のうち, C-N→C・f・mの転出者数が大きい, これは子夫婦と孫がそろって転出し, 三世代同居が対象世代のみになるためである。一方, C→他の転入者数が大きいのは, 対象世代のみの世帯が子夫婦・孫との同居に転じた結果を示すものであろう。

「48年調査」の創設世帯(対象世代の主導のもとにあらたにつくった場合)か相続世帯(親に主導権があった世帯に同居してこれをひきついだ場合)かを, 「59年調査」時におけるタイプ変化との関連でみると(表12), 48年時点でCおよびC-Nについては, その後のタイプ変化に関係なく, Cでは創設世帯率が高く, C-Nでは相続世帯率が高いという特徴が続いている。しかし, Nについては〈タイプ変化あり〉のうちN→C・f・mで創設世帯率が高く, N→他で相続世帯率が高いというちがいが出てくる。さらに「48年調査」の親との同居経験によると, N→C・f・mでは同居経験なしが5割前後であるのに対して, N→他では同居経験ありが6~7割に達する(表12)。以上からも, Nの場合, 創設世帯・親との同居経験なし, および相続世帯・親との同居経験ありのちがいが, Nの未婚子が結婚する際, 同居か別居かの選択にかなり影響を及ぼしていることが明らかとなる。

さらに, 同居・別居を規定する重要な条件となっている住宅をめぐる状況について検討を加える。住居の室数ならびに畳数について(表13), まずC→CとC→他をくらべてみると, 「48年調査」時ですでにC→他の方が室数・畳数ともに恵まれており, 同居への条件を備えている。そして「59年調査」時には, その違いはひろがってくるが, それは子世代との同居による世帯の拡大と対

表 8 周 期 段 階 (昭和48年)

(%)

[illegible]

表 9 周 期 段 階 (昭和59年)

(%)

[illegible]

表 10

S.48 → S.59 グループ → グループ (世帯数)			世帯員数 (人)		稼得人数 (人)	
			昭和48年	昭和59年	昭和48年	昭和59年
I タイプ 変化なし	45N→56N (46)		4.11	3.33	2.43	2.74
	55N→66N (14)		4.07	3.07	2.93	2.79
	65N→76N (4)		4.50	3.50	3.75	2.50
	45C→56C (23)		2.00	2.00	1.61	1.65
	55C→66C (44)		2.00	2.00	1.34	1.66
	65C→76C (12)		2.00	2.00	0.83	1.83
	55C-N→66C-N (23)		5.74	6.13	2.78	3.74
	65C-N→76C-N (26)		6.31	5.88	2.58	3.42
II タ変り イ化 プあ (対代 象の 世み)	45N→56C・f・m (17)		3.82	1.94	2.12	1.65
	55N→66C・f・m (30)		3.20	1.90	2.50	1.70
	65N→76C・f・m (9)		3.33	1.56	1.89	1.44
	45C→56f・m (3)		2.00	1.00	1.33	1.00
	55C→66f・m (6)		2.00	1.00	1.50	1.00
	65C→76f・m (11)		2.00	1.00	1.09	1.00
	55C-N→66C・f・m (3)		5.67	2.00	2.67	1.67
	65C-N→76C・f・m (3)		6.00	1.33	2.67	1.33
III タ変り イ化 プあ (対そ 象+の 世代 他)	45N→56他 (23)		3.91	5.17	2.57	2.96
	55N→66他 (40)		3.83	4.65	3.13	3.10
	65N→76他 (23)		3.70	4.17	2.61	2.39
	45C→56他 (12)		2.00	4.67	1.67	3.08
	55C→66他 (18)		2.00	4.78	1.39	2.67
	65C→76他 (14)		2.00	4.64	1.00	3.29
	55C-N→66他 (23)		5.91	5.17	2.87	2.83
	65C-N→76他 (52)		6.13	5.06	2.65	3.37
計 (479)						

表 11

S.48 → S.59 グループ → グループ (世帯数)			死亡者数 (人)	転出者数 (人)	転入者数 (人)	出生数 (人)	現存子数 (人)	別居子数 (人)
I タイプ 変化なし	45N→56N (46)		0.0	0.96	0.15	0.0	2.57	1.24
	55N→66N (14)		0.0	1.36	0.21	0.0	4.14	3.14
	65N→76N (4)		0.0	1.00	0.0	0.0	5.25	3.75
	45C→56C (23)		0.0	0.0	0.0	0.0	1.04	1.04
	55C→66C (44)		0.0	0.23	0.0	0.0	2.48	2.45
	65C→76C (12)		0.0	0.0	0.0	0.0	3.83	3.83
	55C-N→66C-N (23)		0.0	0.26	0.09	0.57	3.09	2.09
	65C-N→76C-N (26)		0.0	0.65	0.17	0.19	4.27	3.27
II タ変り イ化 プあ (対代 象の 世み)	45N→56C・f・m (17)		0.06	2.06	0.11	0.06	2.35	2.35
	55N→66C・f・m (30)		0.10	1.47	0.07	0.17	2.70	2.60
	65N→76C・f・m (9)		0.44	1.00	0.0	0.0	3.66	3.56
	45C→56f・m (3)		1.00	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	55C→66f・m (6)		1.00	0.0	0.0	0.0	2.50	2.50
	65C→76f・m (11)		1.00	0.0	0.0	0.0	3.09	3.09
	55C-N→66C・f・m (3)		0.0	3.67	0.0	0.0	3.33	3.33
	65C-N→76C・f・m (3)		1.00	4.00	0.0	0.0	4.33	4.33
III タ変り イ化 プあ (対そ 象+の 世代 他)	45N→56他 (23)		0.35	1.13	1.48	1.26	2.70	1.57
	55N→66他 (40)		0.48	0.78	1.13	0.98	3.05	1.90
	65N→76他 (23)		0.78	0.78	1.13	0.87	4.74	3.65
	45C→56他 (12)		0.08	0.25	2.17	0.83	1.58	0.75
	55C→66他 (18)		0.22	0.17	2.61	0.33	3.11	2.22
	65C→76他 (14)		0.50	0.14	2.86	0.07	4.21	3.21
	55C-N→66他 (23)		1.00	0.52	0.17	0.52	3.13	2.17
	65C-N→76他 (52)		0.87	1.06	0.27	0.58	3.37	2.37
計 (479)								

表 12

S. 48 グループ→S. 59 グループ(世帯数)			創設世帯・相続世帯(昭和48年) (%)			親との同居経験(昭和48年)(%)				
			創設世帯	相続世帯	どちらとも いえない	夫の親と ずっと同 居	夫の親と 一時同居	妻の親と ずっと同 居	妻の親と 一時同居	親との同居 経験なし
I タイプ 変化なし	45N→56N (46)		80.4	19.6		8.7	23.9	4.3	4.3	58.7
	55N→66N (14)		64.3	35.7		42.9	35.7		7.1	14.3
	65N→76N (4)		75.0	25.0			25.0	25.0		50.0
	45C→56C (23)		82.6	17.4		21.7	21.7	4.3	4.3	47.8
	55C→66C (44)		65.9	31.8	2.3	25.0	18.2	2.3	6.8	47.7
	65C→76C (12)		66.7	33.3		16.7	8.3		8.3	66.7
	55C-N→66C-N (23)		69.6	30.4		21.7	21.7	8.7		47.8
	65C-N→76C-N (26)		42.3	57.7		46.2	3.8	11.5	7.7	30.8
II タイプ 変化あり (対象の 世帯のみ)	45N→56C・f・m (17)		88.2	11.8		11.8	17.6		17.6	52.9
	55N→66C・f・m (30)		86.7	13.3		20.0	20.0	6.7	6.7	46.7
	65N→76C・f・m (9)		44.4	55.6		22.2	11.1		11.1	55.6
	45C→56f・m (3)		100.0			33.3	33.3			33.3
	55C→66f・m (6)		83.3	16.7		16.7	16.7		33.3	33.3
	65C→76f・m (11)		63.6	36.4		16.7	9.1	9.1		63.6
	55C-N→66C・f・m (3)		66.7	33.3		33.3				66.7
	65C-N→76C・f・m (3)		66.7	33.3		33.3				66.7
III タイプ 変化あり (対象の 世帯+他)	45N→56他 (23)		60.9	34.8	4.3	34.8	13.0	4.3	8.7	39.1
	55N→66他 (40)		65.0	35.0		27.5	22.5	5.0	15.0	30.0
	65N→76他 (23)		52.2	47.8		34.8	17.4		4.3	43.5
	45C→56他 (12)		83.3	16.7		16.7	33.3			41.7
	55C→66他 (18)		88.9	11.1		16.7	11.1		11.1	61.1
	65C→76他 (14)		57.1	42.9		21.4	7.1	14.3	7.1	50.0
	55C-N→66他 (23)		60.9	39.1		17.4	17.4	8.7	13.0	43.5
	65C-N→76他 (52)		55.8	44.2		30.8	15.4	13.5	5.8	34.6
計 (479)										

表 13

S. 48 グループ→S. 59 グループ(世帯数)			室 数 (室)		畳 数 (畳)	
			昭和48年	昭和59年	昭和48年	昭和59年
I タイプ 変化なし	45N→56N (46)		4.43	5.37	26.43	34.83
	55N→66N (14)		5.57	5.64	35.00	37.36
	65N→76N (4)		3.25	4.00	14.75	20.25
	45C→56C (23)		4.26	4.96	25.39	30.78
	55C→66C (44)		4.09	4.34	24.95	27.84
	65C→76C (12)		3.50	4.67	20.83	26.42
	55C-N→66C-N (23)		5.52	6.74	33.35	43.65
	65C-N→76C-N (26)		5.00	6.04	34.31	43.27
II タイプ 変化あり (対象の 世帯のみ)	45N→56C・f・m (17)		4.76	5.12	26.29	31.47
	55N→66C・f・m (30)		5.17	5.13	30.83	32.37
	65N→76C・f・m (9)		4.89	4.89	30.22	29.56
	45C→56f・m (3)		2.00	3.00	10.00	14.33
	55C→66f・m (6)		4.00	3.83	22.83	23.50
	65C→76f・m (11)		3.18	3.09	18.09	17.82
	55C-N→66C・f・m (3)		5.33	4.67	36.67	36.00
	65C-N→76C・f・m (3)		5.33	5.00	33.33	32.67
III タイプ 変化あり (対象の 世帯+他)	45N→56他 (23)		5.30	6.65	30.17	42.70
	55N→66他 (40)		4.60	5.43	27.85	36.10
	65N→76他 (23)		4.74	5.30	28.65	35.61
	45C→56他 (12)		4.58	6.33	25.42	41.75
	55C→66他 (18)		4.78	6.72	28.50	44.44
	65C→76他 (14)		4.79	6.42	29.00	48.86
	55C-N→66他 (23)		5.52	6.43	33.52	43.43
	65C-N→76他 (52)		5.58	6.63	36.40	42.54
計 (479)						

応しており、この11年間に於ける住宅の新築・購入および増改築の結果にもあらわれている(表14)。なお、C→f・mについては「48年調査」時の住居の狭小さが、そのまま「58年調査」時にも続き、11年間に於ける住宅の新築・購入は全くみられない。ところで家屋の新築・購入がこの11年間に目立つのは、C→他のほかには、C-Nの〈タイプ変化なし〉と、N→他である。N→他は子の結婚が契機となったと考えられるが、C-Nの〈タイプ変化なし〉については〈タイプ変化あり〉とくらべて、48年時点で持家率(とくに現存世代による新築・購入)がやや低く(表15)、しかも室数・畳数では低位にあったものが、この11年間に持家率で追いつくとともに、室数・畳数では逆転してしまう。こうした新築・購入・増改築にあたって、住宅資金の負担を誰がしているのかをみると(表16)、とくにC-Nの〈タイプ変化なし〉で

は、子世代が住宅資金の負担の中心となっている点がはっきりあらわれている。全体としては、対象世代の年齢階層が上昇するとともに親世代から子世代へと負担割合が移行していく状況がみられる。また住宅資金の借入れについても(表17)、C-Nの〈タイプ変化なし〉において現在返済中がとりわけ多くみられ、この11年間に子世代が中心となって住宅資金の借入れを行って、住宅の新築・購入をはかったことが明らかとなる。その結果としては、たとえば生活上の悩みとして「48年調査」時には、住宅が第1位にあげられていたが(表18)、「59年調査」では住宅は全くなり、悩みなしの割合が増加した(表19)。また、生活満足度においても、C-Nの〈タイプ変化なし〉ではとくに著しい上昇がみられる(表21)。

(うの・まさみち 社会保障研究所研究員)

表 14 この11年間に於ける住宅の新築・購入および増改築

(%)

	S. 48 グループ→S. 59 グループ(世帯数)	非該当 (借家)	この11年間に 新築・購入	以前からの 持家	以前からの持家中、この11年間に増改築をした			
					区画整理 のため	古くなった ので	狭くなった ので	その他に より
I タイプ 変化なし	45N→56N (46)	10.9	21.7	67.4	4.3	8.7	17.4	8.7
	55N→66N (14)	7.1	14.3	78.6		21.4		
	65N→76N (4)	50.0	25.0	25.0			25.0	
	45C→56C (23)		17.4	82.6	4.3	8.7	4.3	17.4
	55C→66C (44)	13.6	15.9	70.5	2.3	4.5	11.4	9.1
	65C→76C (12)	25.0	25.0	50.0		8.3	16.7	8.3
	55C-N→66C-N (23)	8.7	60.9	30.4		4.3	17.4	8.7
	65C-N→76C-N (26)	3.8	42.3	53.8	3.8	15.4	7.7	
II タイプ 変化あり (対象世代のみ)	45N→56C・f・m (17)	5.9	23.5	70.6		23.4	23.5	
	55N→66C・f・m (30)	13.3	16.7	70.0		10.0	20.0	6.7
	65N→76C・f・m (9)	33.3		66.7	11.1	22.2		
	45C→56f・m (3)	66.7		33.3				
	55C→66f・m (6)			100.0		16.7	16.7	16.7
	65C→76f・m (11)	27.3		72.7	9.1	9.1		9.1
	55C-N→66C・f・m (3)		33.3	66.7		33.3		
	65C-N→76C・f・m (3)			100.0		33.3		33.3
III タイプ 変化あり (対象世代+その他)	45N→56他 (23)	8.7	43.5	47.8	8.7	8.7	13.0	
	55N→66他 (40)	5.0	47.5	47.5		10.0	15.0	5.0
	65N→76他 (23)	13.0	52.2	34.8	8.7	13.0		
	45C→56他 (12)		50.0	50.0			50.0	
	55C→66他 (18)	5.6	33.3	61.1	11.1	16.7	11.1	
	65C→76他 (14)		50.0	50.0		7.1	7.1	14.3
	55C-N→66他 (23)	4.3	30.4	65.2		8.7	34.8	
	65C-N→76他 (52)	7.7	19.2	73.1	3.8	17.3	5.8	9.6
計 (479)								

表 15 住居の所有形態

(%)

S. 48 グループ→S. 59 (世帯数)			昭和 48 年						昭和 59 年							
			持 家		給与住宅	公営借家	民営借家	不明	持 家		給与住宅	公営借家	民間借家 (1戸建)	民 間 ア パ ー ト ン シ ョ ン	借間	その他
			現存世 代新築 購入	死亡世 代より 譲渡					1戸建	マ ジ ョ ン						
I タイプ 変化なし	45N→56N (46)	80.4	4.3	4.3		10.9		89.1		2.2		4.3	4.3			
	55N→66N (14)	78.6	21.4					92.9				7.1				
	65N→76N (4)	25.0	25.0		25.0	25.0		50.0			25.0	25.0				
	45C→56C (23)	82.6	17.4					100.0								
	55C→66C (44)	59.1	15.9	4.5	4.5	15.9		84.1	2.3		4.5	2.3	2.3	2.3	2.3	
	65C→76C (12)	50.0	16.7		8.3	25.0		83.3			8.3	8.3				
	55C-N→66C-N (23)	60.9	30.4			8.7		91.3				4.3		4.3		
	65C-N→76C-N (26)	53.8	30.8		3.8	11.5		96.2				3.8				
II 変り イ化 プあ (対象の 世帯のみ)	45N→56C・f・m (17)	70.6	17.6	5.9		5.9		94.1				5.9				
	55N→66C・f・m (30)	76.7	13.3			10.0		86.7				13.3				
	65N→76C・f・m (9)	33.3	44.4			22.2		66.7		11.1		11.1			11.1	
	45C→56f・m (3)	33.3				66.7		33.3				66.7				
	55C→66f・m (6)	83.3	16.7					100.0								
	65C→76f・m (11)	54.5	18.2			27.3		72.7				9.1		9.1	9.1	
	55C-N→66C・f・m (3)	66.7	33.3					100.0								
	65C-N→76C・f・m (3)	66.7	33.3					100.0								
III 変り イ化 プあ (対象の 世代 +その他)	45N→56他 (23)	52.2	26.1		4.3	17.4		91.3				8.7				
	55N→66他 (40)	60.0	15.0		2.5	22.5		90.0	5.0		2.5	2.5				
	65N→76他 (23)	56.5	17.4			26.1		87.0				8.7	4.3			
	45C→56他 (12)	75.0	8.3			16.7		100.0								
	55C→66他 (18)	61.1	16.7	5.6		16.7		94.4				5.6				
	65C→76他 (14)	57.1	28.6		14.3			100.0								
	55C-N→66他 (23)	65.2	30.4		4.3			95.7			4.3					
	65C-N→76他 (52)	65.4	23.1			9.6	1.9	90.4	1.9			7.7				
計 (479)																

表 16 住宅資金（新築・購入・増改築）の負担者

(%)

S. 48 グループ→S. 59 グループ(世帯数)			非 該 当	対象世代	子 世 代	2 世 代 半分ずつ	そ の 他
I タイプ 変化なし	45N→56N (46)	39.1		50.0	6.5	4.3	
	55N→66N (14)	64.3		14.3	14.3	7.1	
	65N→76N (4)	50.0		25.0	25.0		
	45C→56C (23)	47.8		52.2			
	55C→66C (44)	56.8		36.4		4.5	2.3
	65C→76C (12)	41.7		41.7	8.3		8.3
	55C-N→66C-N (23)	8.7		34.8	47.8	4.3	4.3
	65C-N→76C-N (26)	30.8			61.5	7.7	
II タイプ 変化あり (対象の 世帯のみ)	45N→56C・f・m (17)	29.4		58.8	11.8		
	55N→66C・f・m (30)	46.7		40.0	10.0	3.3	
	65N→76C・f・m (9)	66.7		22.2		11.1	
	45C→56f・m (3)	100.0					
	55C→66f・m (6)	50.0		50.0			
	65C→76f・m (11)	72.7		18.2	9.1		
	55C-N→66C・f・m (3)	33.3		66.7			
	65C-N→76C・f・m (3)	33.3		33.3	33.3		
III タイプ 変化あり (対象の 世代 +その他)	45N→56他 (23)	26.1		47.8	4.3	17.4	4.3
	55N→66他 (40)	22.5		27.5	37.5	10.0	2.5
	65N→76他 (23)	26.1		17.4	52.2	4.3	
	45C→56他 (12)	8.3		66.7	8.3	8.3	8.3
	55C→66他 (18)	27.8		44.4	22.2	5.6	
	65C→76他 (14)	21.4		14.3	57.1		7.1
	55C-N→66他 (23)	26.1		21.7	34.8	13.0	4.3
	65C-N→76他 (52)	44.2		9.6	36.5	5.8	3.8
計 (479)							

表 19 生活上の悩み (昭和59年)

(%)

S.48 → S.59 グループ → グループ (世帯数)			悩みなし	子孫の 進 学	子孫の 就 職	子孫の 結 婚	病人・心 身障害者	収 入 不 足	住 宅	家 庭 内 おりあい	まわりの 環境	その他
I タイプ 変化なし	45N→56N (46)		17.4		2.2	47.8			26.1			6.5
	55N→66N (14)		14.3			28.6	21.4	14.3				21.4
	65N→76N (4)		50.0					50.0				
	45C→56C (23)		39.1					13.0	4.3		17.4	26.1
	55C→66C (44)		56.8			2.3	9.1	6.8			2.3	22.7
	65C→76C (12)		50.0		8.3		16.7	8.3				16.7
	55C-N→66C-N (23)		43.5		4.3		21.7	8.7		4.3	4.3	13.0
	65C-N→76C-N (26)		57.7	7.7			19.2	7.7			3.8	3.8
II タイプ 変化あり （対象の世帯）	45N→56C・f・m (17)		23.5	5.9	5.9	11.8	17.6	5.9	23.5		5.9	
	55N→66C・f・m (30)		60.0			10.0	6.7	10.0	3.3			10.0
	65N→76C・f・m (9)		44.4	11.1			11.1	11.1	11.1			11.1
	45C→56f・m (3)		33.3						33.3			33.3
	55C→66f・m (6)		33.3									66.7
	65C→76f・m (11)		36.4					9.1	9.1		9.1	36.4
	55C-N→66C・f・m (3)		100.0									
	65C-N→76C・f・m (3)		33.3									66.7
III タイプ 変化あり （対象の世帯）	45N→56他 (23)		43.5	4.3		8.7	8.7	17.4	8.7			8.7
	55N→66他 (40)		32.5	5.0		12.5	2.5	20.0	10.0	2.5	2.5	12.5
	65N→76他 (23)		43.5			17.4	4.3	8.7	13.0	4.3		8.7
	45C→56他 (12)		33.3			8.3		16.7		8.3	16.7	16.7
	55C→66他 (18)		55.6	16.7		11.1		5.6	5.6		5.6	
	65C→76他 (14)		57.1	7.1	7.1	7.1				7.1		14.3
	55C-N→66他 (23)		47.8	4.3	4.3	4.3	8.7		21.7			8.7
	65C-N→76他 (52)		46.2	1.9	1.9	9.6	7.7	19.2	1.9	3.8	1.9	5.8
計 (479)												

表 20 現住地の定住意志

(%)

S.48 → S.59 グループ → グループ (世帯数)			昭 和 48 年				昭 和 59 年			
			住む つもり	移りたい	住む だろう	わからない	住む つもり	移りたい	住む だろう	わからない
I タイプ 変化なし	45N→56N (46)		73.9	13.0	10.9	2.2	89.1	8.7		2.2
	55N→66N (14)		92.9			7.1	78.6	21.4		
	65N→76N (4)		50.0	25.0	25.0		100.0			
	45C→56C (23)		91.3		4.3	4.3	95.7	4.3		
	55C→66C (44)		75.0	11.4	4.5	9.1	81.8	13.6	2.3	2.3
	65C→76C (12)		75.0		8.3	16.7	91.7	8.3		
	55C-N→66C-N (23)		87.0	4.3	4.3	4.3	95.7			4.3
	65C-N→76C-N (26)		92.3	3.8		3.8	88.5	7.7		3.8
II タイプ 変化あり （対象の世帯）	45N→56C・f・m (17)		70.6	11.8	11.8	5.9	82.4	5.9	5.9	5.9
	55N→66C・f・m (30)		86.7	13.3			80.0	10.0	3.3	6.7
	65N→76C・f・m (9)		88.9		11.1		88.9	11.1		
	45C→56f・m (3)		33.3	33.3	33.3		33.3			66.7
	55C→66f・m (6)		83.3			16.7	66.7	16.7		16.7
	65C→76f・m (11)		72.7	9.1		18.2	81.8			18.2
	55C-N→66C・f・m (3)		100.0				100.0			
	65C-N→76C・f・m (3)		66.7		33.3		100.0			
III タイプ 変化あり （対象の世帯）	45N→56他 (23)		65.2	26.1	4.3	4.3	78.3	13.0	8.7	
	55N→66他 (40)		65.0	17.5	10.0	7.5	92.5	5.0	2.5	
	65N→76他 (23)		56.5	26.1	17.4		87.0	4.3		8.7
	45C→56他 (12)		58.3	25.0		16.7	91.7		8.3	
	55C→66他 (18)		61.1	27.8	5.6	5.6	94.4	5.6		
	65C→76他 (14)		78.6	14.3	7.1		92.9			7.1
	55C-N→66他 (23)		91.3	4.3	4.3		95.7	4.3		
	65C-N→76他 (52)		92.3	1.9	1.9	3.8	96.2		3.8	
計 (479)										

表 21 生活満足度

(%)

S. 48 グループ→S. 59 グループ(世帯数)			昭 和 48 年					昭 和 59 年						N. A.
			非常に 満	ま 満	あ 足	なんと いえない	少し 不満	非常に 不 満	非常に 満	ま 満	あ 足	なんと いえない	少し 不満	
Ⅰ タイプ 変化なし	45N→56N (46)		4.3	65.2	17.4	6.5	6.5	15.2	56.5	13.0	10.9	4.3		
	55N→66N (14)			71.4	7.1	7.1	14.3	7.1	57.1	21.4	7.1	7.1		
	65N→76N (4)			100.0					50.0	25.0		25.0		
	45C→56C (23)		4.3	78.3	4.3	8.7	4.3	13.0	56.5	21.7	8.7			
	55C→66C (44)		11.4	79.5	4.5	4.5		20.5	77.3		2.3			
	65C→76C (12)		16.7	75.0	8.3			8.3	75.0	16.7				
	55C-N→66C-N (23)		4.3	69.6	13.0	8.7	4.3	8.7	91.3					
	65C-N→76C-N (26)		7.7	69.2	11.5	3.8	7.7	19.2	69.2	7.7	3.8			
Ⅱ タイプ 変化あり （対象のみ）	45N→56C・f・m (17)		5.9	76.5	17.6			5.9	64.7	17.6	5.9	5.9		
	55N→66C・f・m (30)		6.7	66.7	16.7	6.7	3.3	13.3	76.7	10.0				
	65N→76C・f・m (9)			77.8	11.1	11.1			77.8		22.2			
	45C→56f・m (3)			100.0					66.7	33.3				
	55C→66f・m (6)			66.7	33.3			16.7	66.7	16.7				
	65C→76f・m (11)	18.2		54.5	27.3				81.8	9.1	9.1			
	55C-N→66C・f・m (3)			66.7	33.3				100.0					
	65C-N→76C・f・m (3)			66.7	33.3			33.3	33.3	33.3				
Ⅲ タイプ 変化あり （その他の対象世代）	45N→56他 (23)			78.3	17.4		4.3	4.3	69.6	17.4	8.7			
	55N→66他 (40)			57.5	10.0	20.0	12.5		80.0	15.0	5.0			
	65N→76他 (23)	4.3		56.5	26.1	8.7	4.3	8.7	78.3	8.7	4.3			
	45C→56他 (12)	8.3		66.7	16.7	8.3		8.3	66.7	16.7	8.3			
	55C→66他 (18)	11.1		66.7	5.6		16.7	16.7	72.2	5.6	5.6			
	65C→76他 (14)	14.3		57.1	14.3	7.1	7.1	21.4	57.1	14.3	7.1			
	55C-N→66他 (23)	8.7		60.9	17.4	13.0		30.4	65.2	4.3				
	65C-N→76他 (52)	15.4		73.1	5.8	3.8	1.9	30.8	53.8	9.6	1.9	1.9	1.9	
計 (479)														

表 22

S. 48 グループ→S. 59 グループ(世帯数)			対象世代 夫月収 (千円)	対象世代 妻月収 (千円)	月収合計 (万円)
I タイプ 変化なし	45N→56N (46)		237.1	49.5	47.0
	55N→66N (14)		251.4	53.6	43.9
	65N→76N (4)		67.5	19.5	25.0
	45C→56C (23)		227.6	78.4	30.6
	55C→66C (44)		189.0	53.9	24.3
	65C→76C (12)		200.4	43.3	24.5
	55C-N→66C-N (23)		105.9	48.3	47.7
	65C-N→76C-N (26)		84.0	34.7	48.7
II タイプ 変化あり （対 象の 世帯）	45N→56C・f・m (17)		224.3	60.7	27.1
	55N→66C・f・m (30)		237.9	69.6	28.5
	65N→76C・f・m (9)		151.6	66.1	15.1
	45C→56f・m (3)		—	103.3	10.3
	55C→66f・m (6)		25.0	116.4	10.2
	65C→76f・m (11)		—	82.1	8.2
	55C-N→66C・f・m (3)		116.7	37.0	15.3
	65C-N→76C・f・m (3)		210.1	43.3	7.0
III タイプ 変化あり （そ の 対 象 の 世 帯）	45N→56他 (23)		190.2	77.6	46.3
	55N→66他 (40)		120.5	49.1	41.3
	65N→76他 (23)		249.0	68.2	37.7
	45C→56他 (12)		275.2	74.0	59.7
	55C→66他 (18)		200.5	53.3	49.0
	65C→76他 (14)		180.4	63.3	72.1
	55C-N→66他 (23)		79.0	72.2	49.5
	65C-N→76他 (52)		138.2	51.3	49.3
計 (479)					

(%)

[illegible]

(%)

[illegible]

